わかってる　ほんとは　ずっと……

涼夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
わかってる　ほんとは　ずっと……

【Ｎコード】
Ｎ７６２２Ｘ

【作者名】
涼夢

【あらすじ】
総司と千鶴が雪村の里で迎えたとある寒い冬の日……　総司は感じていた……。　もうすぐこの『幸せ』を彼女の笑顔を失うことを……。　ｐｉｘｖにも掲載しています。

「……ん……」

その日は朝からとても寒かった。
布団のぬくもりから離れたくない。
寒い寒い……。
そんなことを思いながらふと、隣に寝ているはずの千鶴を見る……。
でも、そこに彼女はいない。
まだ、布団が少しだけあたたかい。
朝食の準備にしては早すぎる。

「……わぁ……」

縁側のほうから小さく聞こえる弾んだ声……。
こんな朝早くから……
寒いのによく……

「……まったく……」

まだ眠っていたい……。
それでも彼女が気になる。
この季節ゆえ、だ。
僕は布団からのろのろと起き上がり横に置きっぱなしにしておいた
上着を羽織る。
すると、千鶴の上着は枕元に置いたままなことにも気づいた。
それを持って、縁側に出る。

「千鶴、朝から何を……」
「総司さんっ！？ごめんなさいっ起こしてしまいましたか……？」
「……雪……」
「はいっ！昨日の晩、降ってたみたいで、今朝起きたらこーんなにっ」

嬉しそうに笑って両手を大きく広げて見せた。
それが僕には愛おしくてたまらない。

「こーんなに、はいいけどちゃんと上着着て。ほら、そんなに薄着じゃ風邪ひくよ」
「あ……つい嬉しくって……」
「まったく……君ってコは」

淡い桃色の着物を着た千鶴を僕は抱きしめた。
彼女は縁側に上着も羽織らず突っ立っていたおかげでとても冷たい。
それでも、千鶴は少し頬を赤く染め、僕の顔を見て微笑んだ……。
僕は彼女を放して、上着を羽織らせた。
ありがとうございます、と千鶴はまた笑う。

「で、何するの」
「はい？」
「雪うさぎ？雪だるま？それともかまくらにする？」
「かまくら……って作れるんですかっ？」
「当たり前でしょ。昔はよく作ったんだよ」
「……新選組のみなさんでですか……？」
「そんなわけないでしょ。そんなことあそこでやってたら、誰かさんがすっごい顔して怒鳴るよ。きっと」
「ふふふっ」
「よっ……と」

縁側から飛び降りるとサクっと小さな音が鳴る。
真っ白い雪……
ほら、千鶴も。
そう言って腕を広げると千鶴が少しためらって、でも飛び込む……。
僕が笑う……
君が笑う……。
君が笑う……
僕が笑う……。

「さぁてと、じゃぁ作ろうか」
「はいっ！」

その日はほとんど一日中、雪の中を二人で駆け回った。
自分が羅刹であることも労咳であることもその時だけは不思議と忘れられていたし、多分きっと……千鶴も忘れていた。
それでよかった。
その瞬間だけは紛れもない沖田（ぼく）総司でいられたから。

「はぁ～……さすがに疲れたね」
「でも久しぶりで楽しかったですね」
「そうだね。寒くて手が凍りかけてるけど」
「ふふふふっ」
「君がそんなに喜ぶんだから一年中、雪が降っていればいいのにね」
「でも私、たくさんの花が咲き乱れてるのも大好きなんです。総司さんとあたたかいひなたでお昼寝するのも楽しいでしょう？」
「……冬があるから春がある……か」
「総司さん？」
「そろそろ部屋に入ろうか、千鶴」
「はい」

きっと……これが最後になる……。
僕が観るこの景色……
冬をもう見ることはできないだろう……。

「総司さん……」
「ん？」
「……来年もまた、かまくら、作ってくださいね……？」
「……うん……そうだね、千鶴……」

わかってる……。
この幸せがもうすぐなくなってしまうことを……
ほんとはずっと……感じてる……。
それでも君が大切だから……
僕は今日も平気な顔で笑い酷い嘘を吐く……。

（後書き）

明日、やっと念願のゲームをＧＥＴしに行ってきます（＜＿＞）
わぁぁあああああっ！！！！！
沖田さんんんんっ……！！！！！！！！！！
やっと会えるっ……！！！！！
貴方にやっと……

そんな感じで沖田さんのコト考えまくってたらいつの間にかできあがってたｗｗ
ゲームやってないからわけわかったないけど沖田さん書きたかっただけなんで許してくださいｏｒｚ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7622x/

わかってる　ほんとは　ずっと……

2011年10月20日18時10分発行